

稲葉地消防団

【中村区】

【学区紹介】

稲葉地学区は、中村区の西部に位置しており、人口は約1万6千人、世帯数は約8千3百世帯と中村区で最大の学区となっています。

地域特性として、名古屋駅から離れているため、住宅街が中心となっており、昔ながらの建物も多く高齢者が大変多い地域となっています。また、学区の西側に庄内川が流れており、水害の危険性も高い地域となっています。



アクテノン



中村区消防団連合観閲式

稲葉地消防団詰所が建っており、活動拠点となっている稲葉地公園には、円柱状の巨大な建物が建っています。この建物は、アクテノンの通称で呼ばれ、名古屋市都市景観重要建築物に指定されています。建築当初は、配水塔として建てられ、その後、図書館に改造され、現在は演劇練習場として使われています。

【消防団の沿革】

稲葉地消防団は、明治30年に「中村第4部消防組」として結成され、昭和14年に「稲葉地消防団」に改組、昭和23年に現在の「稲葉地消防団」となった歴史ある消防団です。



稲葉地消防団詰所



消防団車両

【消防団活動紹介】

火災予防広報やポンプ操法訓練以外に、稲葉地学区の防災訓練、女性部会への防災講和、各町内会の自主防災訓練など様々な地域防災力向上のための活動を行っています。



震災対応連携訓練発表会



【地域活動紹介】

稲葉地消防団は地域の様々な活動を支援していますが、中村区の年に一度の最大行事として、太閤まつりがあります。太閤まつりは、豊臣秀吉の生誕の地に建てられた豊國神社で開催され、豊臣秀吉を偲んで行われるまつりです。まつりでは、豊太閤頭巾行列や出世稚児行列をはじめ、様々な行列が繰り出します。



自主防災訓練



ひょうたんみこし

太閤まつりには、中村区消防団連合会として、中村区的全消防団がまつりの警備にあたりますが、稲葉地消防団として、稲葉地学区のひょうたんみこし担ぎにも地域の住民とともに参加しています。